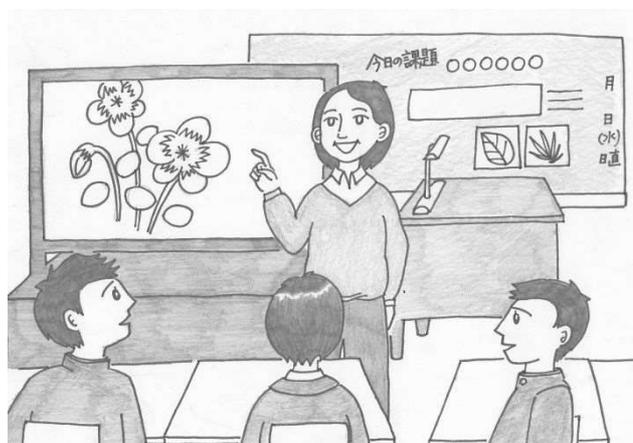


平成 30 年度

川崎市立中学校

学習状況調査 概要



◎ 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査実施日 | 平成30年11月13日（火） |
| (2) 調査対象人数 | 学校第1学年 9,543 人
学校第2学年 9,715 人
学校第3学年 9,699 人 |

5. 調査の方法

○国語・社会・数学・理科・英語

各教科の問題は、知識・技能に関する問題と思考・判断・表現に関する問題について出題し、それぞれについて分析を行った。

解答用紙

平成 30 年度 川崎市立中学校学習診断テスト 社会 2年 解答用紙

※右下の欄に「マスターシール」をはることを。

問	知	技	愚	判	表	現	表
問1							1 /7
問2							2 /3 /1
問3							3 /5 /1
問4							4 /3 /2
問5							6 /2 /1
問6							7 /2 /3
問7							8 /5 /1
問8							9 /3 /4
問9							正答数の合計
正答数							/33 /17

網掛けは、思考・判断・表現に関する問題

正答基準の解答類型により○を付ける

A：すべての条件が満たされている

B：指定の語句をすべて使用しているが、内容が不十分である

C：内容が正しくない、語句をすべて使用していない、無答

◎ 調査結果の概要

○定着していると考えられる内容 ●課題があると考えられる内容

知識・技能に関する問題

国 語

○話の内容を的確にとらえて聞くこと ●漢字を書くこと

社 会

○基本的な用語を理解すること ●諸外国の特色や歴史について理解すること

数 学

○連立二元一次方程式を解くこと ●基本的な立体の体積や表面積を求めること

理 科

○第2分野の基本的な用語を理解すること ●物理分野での作図や計算、データを読み取ること

英 語

○短い会話文を聞き、その内容を把握すること ●正しい綴りで書くこと

思考・判断・表現に関する問題

国 語

○韻文の内容を読み取ること ●文章からとらえたことや自分の考えを記述すること

社 会

○基本的な資料から判断すること ●複数の事象や既習事項を関連付けて考察し表現すること

数 学

●説明を解釈して、他の場面に適用すること

理 科

○リード文や選択肢などにより定められた視点で、比較し考察すること ●グラフや資料等のデータを活用して考察すること

英 語

●場面や状況を理解し、それに適した文章を正しく書くこと

平均正答率

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
知識・技能	52.2%	60.1%	58.0%	51.5%	61.4%
思考・判断・表現	58.3%	55.0%	44.1%	54.3%	39.7%
全設問	55.7%	58.4%	51.3%	52.5%	51.3%

◎ 思考・判断・表現に関する問題

1. 国語

立場を明確にし、自分の考えを記述する問題

○出題の趣旨

目的に応じて資料を読み取り、その内容を踏まえ、考えを条件に即して書くことができる。

表 A

年賀状などにおいて、印刷されたものと手書きが加えられたものではどちらが良いと思うか。

全て印刷されたもの	手書きされたものや手書きが一言加えられたもの	どちらも変わらない	分からない
5.0%	87.6%	6.6%	0.8%

表 B

文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか。

大切にすべきであると思う	大切にすべきではないと思う	どちらとも言えない	分からない
91.5%	1.6%	6.4%	0.5%

資料：平成 26 年度 文化庁「国語に関する世論調査」より

主な課題
目的に応じて資料を読み取り、その内容を踏まえ、自分の考えを条件に即して書くこと

・条件を満たしているが、適切な表現となっていないもの 3%
・記述しているが、条件を満たさないもの 32%

正答率 33% 無答率 32%

【正答例】
表を見ると、年賀状などで手書きされたものや手書きが一言加えられたものが良いと答えた人が九十パーセント近くいる。また、文字を手書きする習慣を大切にすべきと思う人は九十パーセントを超えている。
このことから、年賀状などでは、手書きの方が喜ばれると感じた。だから私は、今後手書き文字を大切にしたいと思う。(8行)

【条件】
1 八行以上、十二行以内で書くこと。
2 段落のはじめは二マス空け、二段落で書くこと。各段落の内容は次のとおりにすること。
① 一段落目は左の表 A、表 B からわかることを書きなさい。(A、B 両方について述べること)。
② 二段落目は、手書き文字を大切にしたいかどうか、自分の立場を明確にし、理由を含めて書きなさい。

問七

次の資料は、「国語に関する世論調査」の結果の一部です。あなたは、手書き文字を大切にしたいと思いますか。自分の考えを述べなさい。ただし、次の条件を満たすように書くこと。

○授業改善に向けて

読み取った内容や自分の考えを、条件に合わせながらまとめて書くためには、伝えたい内容を的確に言葉で表すことが必要である。

授業改善の手立てとしては、資料や文章から読み取った内容や考えたことを、適切に伝えるよう工夫して報告・説明する活動等が考えられる。生徒が言葉に着目し、言葉への自覚を高めていく取組を積み重ね、適切な表現を吟味する態度や、その際の視点等を育成していくことが大切である。併せて、自分の考えや捉えた内容を言葉にまとめることの意義や、伝え合うことの意義を子どもたちが実感できる指導の工夫をして「書くこと」への意欲を高めていくこと、自分の考えを言葉にまとめて表現する場面を、子どもたちが日常的にもてるようにすること等も大切である。また、言葉による理解や表現、思考の基盤となる語彙について、量と質の両面から充実させるような指導を継続的に行うことも必要である。

2. 社会

近代の日本と世界について考え判断することに関する問題

○出題の趣旨

幕末の歴史の流れを正しく理解し、適切に判断しているかを問う。

問 4 「近代の日本と世界」について、こういちさんとさとるさんの会話文をみて、つぎの(ア)～(オ)の問いに答えなさい。

会話文

こういちさん： 近代の世界のようすについて教えてください。

さとるさん： 17世紀になると、^④イギリスで起こった革命を経て、議会政治の基礎を固め、18世紀にはイギリスはヨーロッパの強国となりました。

こういちさん： なぜ、イギリスが強国になったのですか。

さとるさん： 18世紀、イギリスでは世界で最初に^⑥産業革命が起こり、その後他の国々を大きく突き放す工業国になっていったからです。

こういちさん： そのころの日本のようすはどうでしたか。

さとるさん： 19世紀に入ると、イギリスやアメリカの船がしきりに日本の沿岸に近づきました。その結果、1825年、 A

こういちさん： その後、日本と外国との関係はどうなっていったのですか。

さとるさん： アメリカの艦隊が日本にやってきて、^⑤日米和親条約を結ぶことになりました。

こういちさん： この後、^①幕府滅亡へと進んでいくのですね。

(オ) 下線④について、このころ起こった、下のの中の①～④のできごとを古い順に並べたとき3番目にくるものを1つ選び、番号で答えなさい。

① 桜田門外の変 ② 薩長同盟 ③ 大政奉還 ④ 安政の大獄

正答：② (④-①-②-③) **正答率：43%** 誤答選択率：① 20% ③ 18% ④ 19%

主な課題 世界の歴史を背景に、我が国の歴史の流れを大きくとらえ判断すること

○ 授業改善に向けて

新学習指導要領の歴史的分野の目標には「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する」ことが示され、「開国とその影響」については、「欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱うようにし、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響を踏まえ、それが明治維新の動きを生み出したことに気付くことができるようにする。」とある。

授業改善の手立てとしては、歴史的事象の因果関係等の理解に課題がみられるため、歴史の流れを大きく捉えるための学習課題を設定し、欧米諸国の近代化による我が国への影響と既習事項等を関連付けて因果関係等を考察し、学習課題を解決する学習が考えられる。各時代の学習において、広い視野から、世界の歴史と我が国の歴史の関連を踏まえて、課題を追究し解決する学習を行うことが大切である。

3. 数学

多角形の角の性質に関する問題

○出題の趣旨

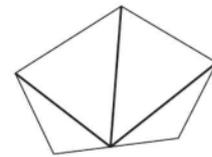
五角形の内角の和の求め方について、図、言葉、式のそれぞれの表現を解釈し、与えられた五角形の内角の和の求め方を読み取り、数学的に表現することができる。

問8 (イ)

五角形の内角の和は 540° です。その求め方を(i)、(ii)の2つの考え方で、下の表のようにまとめています。このとき、(ii)の考え方で解答用紙の図に補助線をひき、にあてはまる式を答えなさい。

	(i)	(ii)
図		
考え方	五角形の内部の点から各頂点に直線をひくと、5個の三角形に分けることができる。	五角形の辺上に1つの点を取り、その点から各頂点に直線をひくと、4個の三角形に分けることができる。
言葉	五角形の内角の和は三角形5個分の内角の和から、内部の点のまわりの 360° をひく。	五角形の内角の和は三角形4個分の内角の和から、辺上の点のまわりの 180° をひく。
式	$180^\circ \times 5 - 360^\circ = 540^\circ$	<input type="text"/> = 540°

図

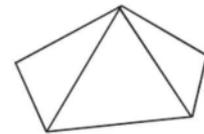


式： $180^\circ \times 4 - 180^\circ$

正答率：58%

誤答例

図



14%

式： $180^\circ \times (5 - 2)$ 7%

無答率：10%

主な課題

五角形の内角の和の求め方について、図、言葉、式のそれぞれの表現を解釈し、他の場面に適用すること

○ 授業改善に向けて

新学習指導要領解説数学編では、「数学的な見方・考え方」と、育成を目指す資質・能力の「思考力・判断力・表現力等」において「統合的・発展的に考察」することが述べられている。これは与えられた問題を解いて終わりとするのではなく、それを基にしてよりよりものを目指して考えを進めようとする見方・考え方を鍛え、そのような過程を遂行することができる「思考力・判断力・表現力等」を育成することを意図している。

授業改善の手立てとしては、いくつかの解決の方法を数学的な表現を用いて説明する場面を設定し、それぞれの方法について共通点を見だし、発展的に考えることが大切である。本問の場合では、「点を取って三角形に分割している」ことでそれぞれの考えの共通点を見だし、次に、「どこに点をとってもできるのではいか」と発展的に考える場面を設定することが考えられる。

4. 理科

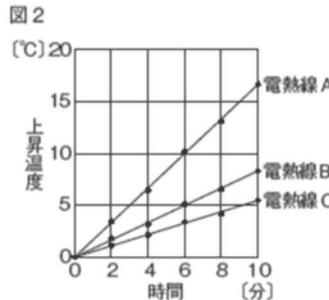
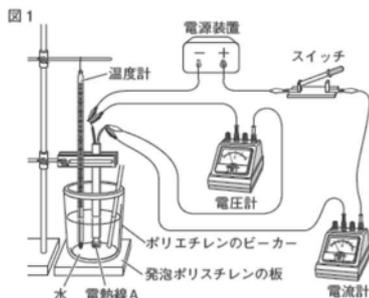
オームの法則と発熱量の関係性の知識を活用し、実験結果を分析・解釈する問題

○出題の趣旨

「電圧」の条件をそろえて行っている実験であることを理解した上で、オームの法則と発熱量の関係性の知識を活用し、実験結果を分析・解釈することができる。

問 6 電熱線から発生する発熱量について調べるために、**実験**を行いました。次の各問いに答えなさい。

- 実験**
- 電熱線Aを用いて回路をつくり、電熱線に加える電圧を6.0Vに調節して、電流の大きさを測定した(図1)
 - 水をゆっくりとかき混ぜながら2分ごとに、10分間、水温を測定した。
 - 電熱線B、Cについても条件を同じにして同様の実験を行い、結果を表と図2のグラフにまとめ考察した。



	電圧 [V]	電流 [A]	電力 [W]
電熱線 A	6.0	3.0	18.0
電熱線 B	6.0	1.5	9.0
電熱線 C	6.0	1.0	6.0

考察

電熱線AとBに同じ電圧を加えたが、電熱線Aのほうが電熱線Bより抵抗が のので、より大きな電流が流れた。そして、水の上昇温度が大きくなったことから、電熱線Aのほうが発熱量が になっていると考えられる。また、図2から発熱量は電流を流した時間に比例していることがわかった。

- a 考察の , に当てはまることばの組み合わせとして正しいものはどれですか。次の～④から1つ選び、その番号で答えなさい。

	ア	イ
①	大きい	大きく
②	大きい	小さく
③	小さい	大きく
④	小さい	小さく

③+①
85%

正答：③ **正答率：65%** 誤答選択率：①20% ②11% ④3%

③+④ 68%

主な課題：「電圧」の条件を一定にしたときに、反比例になる「抵抗」と「電流」の関係性を、実験結果の分析・解釈に活用すること。

○ 授業改善に向けて

今年度の全国学力・学習状況調査に、実験結果から「電圧」と「電流」の値を読み取り、「抵抗」を算出する問題があり、「オームの法則」が表す「電圧」「電流」「抵抗」の関係性の理解に課題が見られた。本調査では、その関係性を活用し、電熱線の発熱量の実験結果を分析・解釈する問題を出題した。水温上昇と発熱量が比例の関係であると捉えることは概ねできていたが、「抵抗」と「電流」が反比例の関係であると捉えることや、それを基にして実験結果を分析・解釈することに課題が見られた。

授業改善の手立てとしては、何の条件をそろえ、何を変化させて実験や観察を行うのか、その結果、何がどのように変化しているのかということ意識させる。そして、生徒が、そこにある関係性を見だし、式やグラフで表現するなどの学習活動を充実させる必要がある。

5. 英語

英作文問題

○出題の趣旨

与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。

問8 b

あなたは駅の階段で一人の女性を見かけました。次の状況では、あなたなら何と言いますか。
4語以上の英文で書きなさい。



正答例

Shall I carry your bag?

主な課題

会話の場面や状況を理解し、それに適した英文を正しく書くこと

正答率 38%

無答率 17%

○ 授業改善に向けて

新学習指導要領の外国語科の目標 (2) に「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。」とある様に、目的や場面、状況に応じたコミュニケーションを行うことが重要であり、その上で、外国語を実際に使用することを繰り返すことで、思考力・判断力・表現力等が育成される。

授業改善の手立てとしては、場面と切り離された単語や文法を取り出して、その練習のみに終始するのではなく、目的や場面、状況を明確に設定し、既習事項を活用させながら言語活動を繰り返し行っていくことが考えられる。また、書くことに関しても、単語や例文を何回も書かせるのではなく、書く目的を明確にし、文章を継続して繰り返し書く中で正確な語彙の使い方や文法などを段階的に確認していくことが重要である。

◎ 生活や学習についてのアンケートについて

1. 授業に対する好感度、理解度、有用感等について

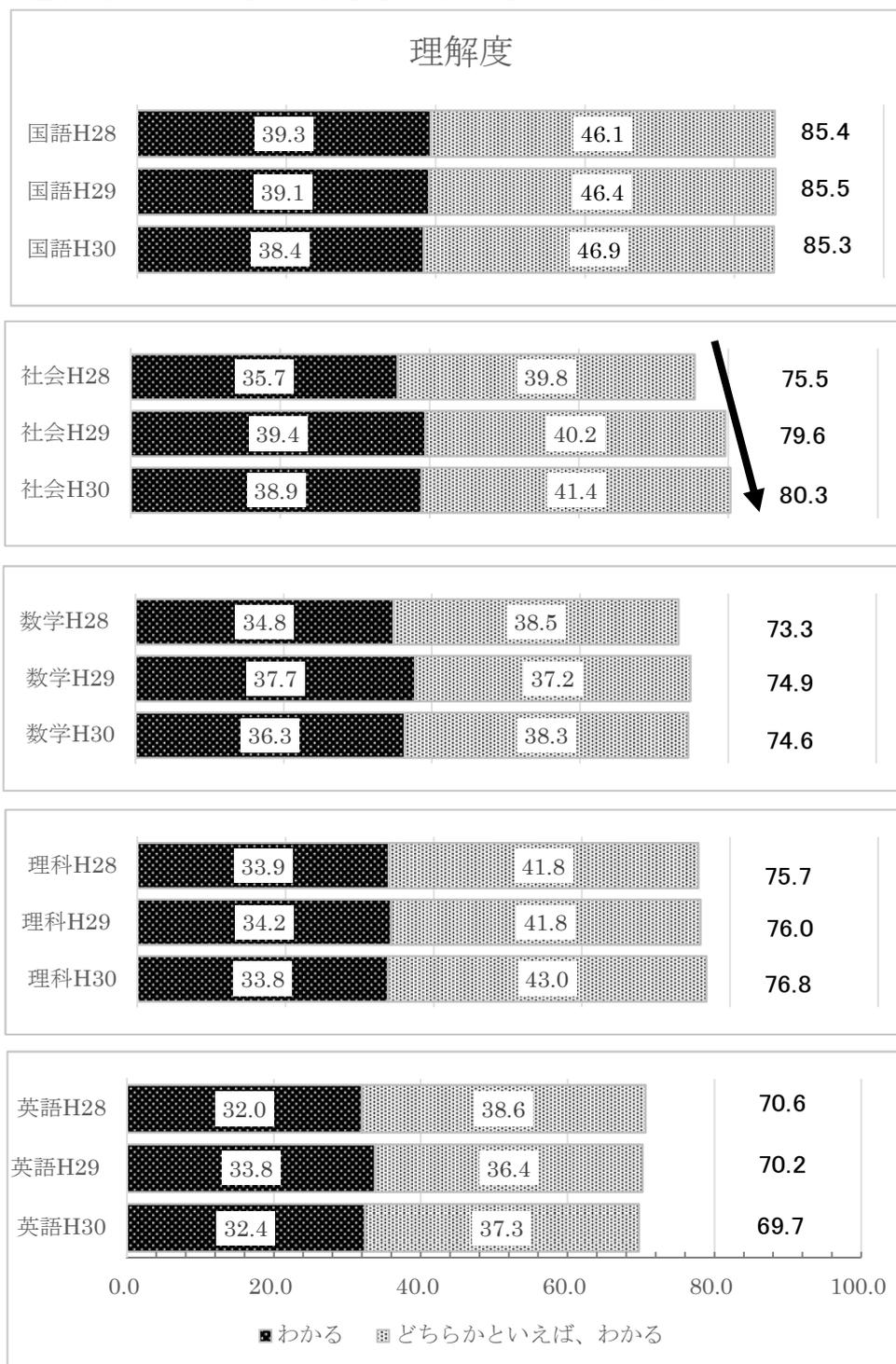
(1) 好感度 「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」



○授業の好感度（「すき」「どちらかといえばすきだ」を合わせた割合）が最も高いのは「社会」（67.3%）で、以下「国語」（64.0%）、「理科」（65.5%）、「数学」（59.0%）、「英語」（58.4%）となっている。

○過去3年間の各教科の好感度の平均は、「国語」は65.1%、「社会」は64.6%、「数学」は58.0%、「理科」は64.1%、「英語」は57.9%である。

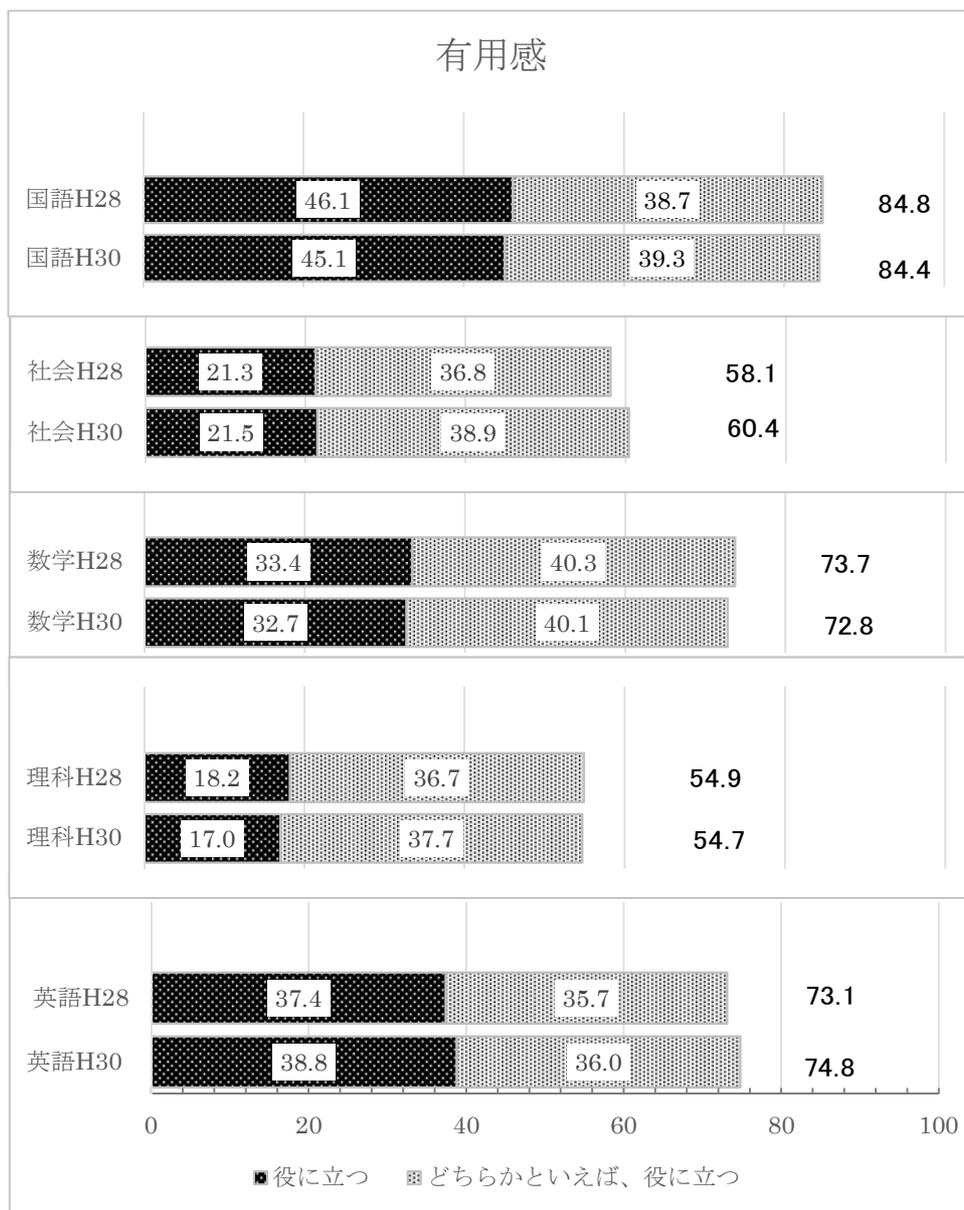
(2) 理解度 「わかる」「どちらかといえば、わかる」



○授業の理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」（85.3%）で、以下、「社会」（80.3%）、「理科」（76.6%）、「数学」（74.8%）、「英語」（69.7%）となっている。

○過去3年間の各教科の理解度平均は、「国語」は85.4%、「社会」は78.5%、「数学」は74.3%、「理科」は76.2%、「英語」は70.2%である。

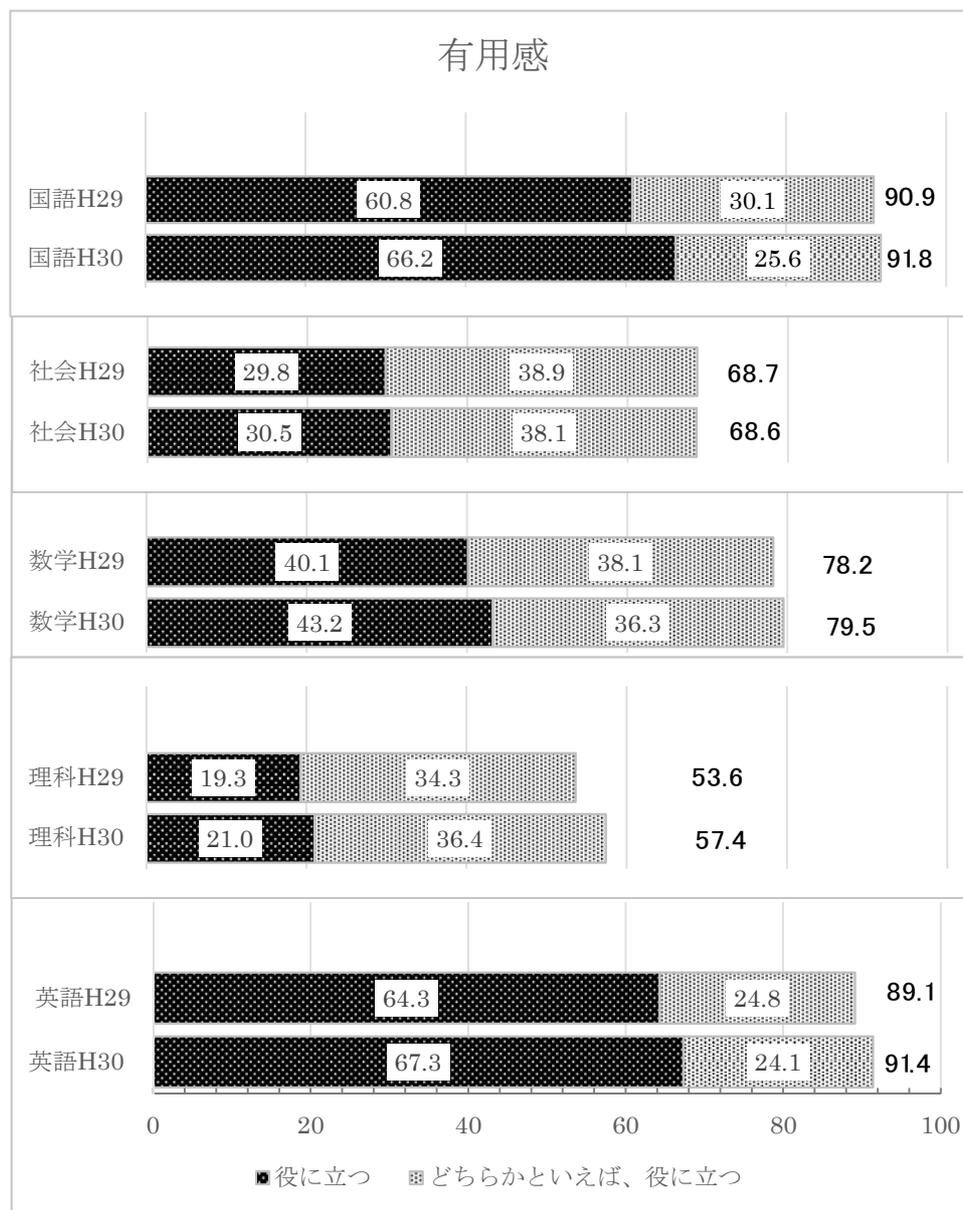
(3) 有用感（生活） 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」



○生活の中での有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」（84.4%）で、以下、「英語」（74.8%）、「数学」（72.8%）、「社会」（60.4%）、「理科」（54.7%）となっている。

○28年度の調査と比較すると、「社会」は2.3ポイント、「英語」は1.7ポイント増加している。

(4) 有用感 (将来) 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」

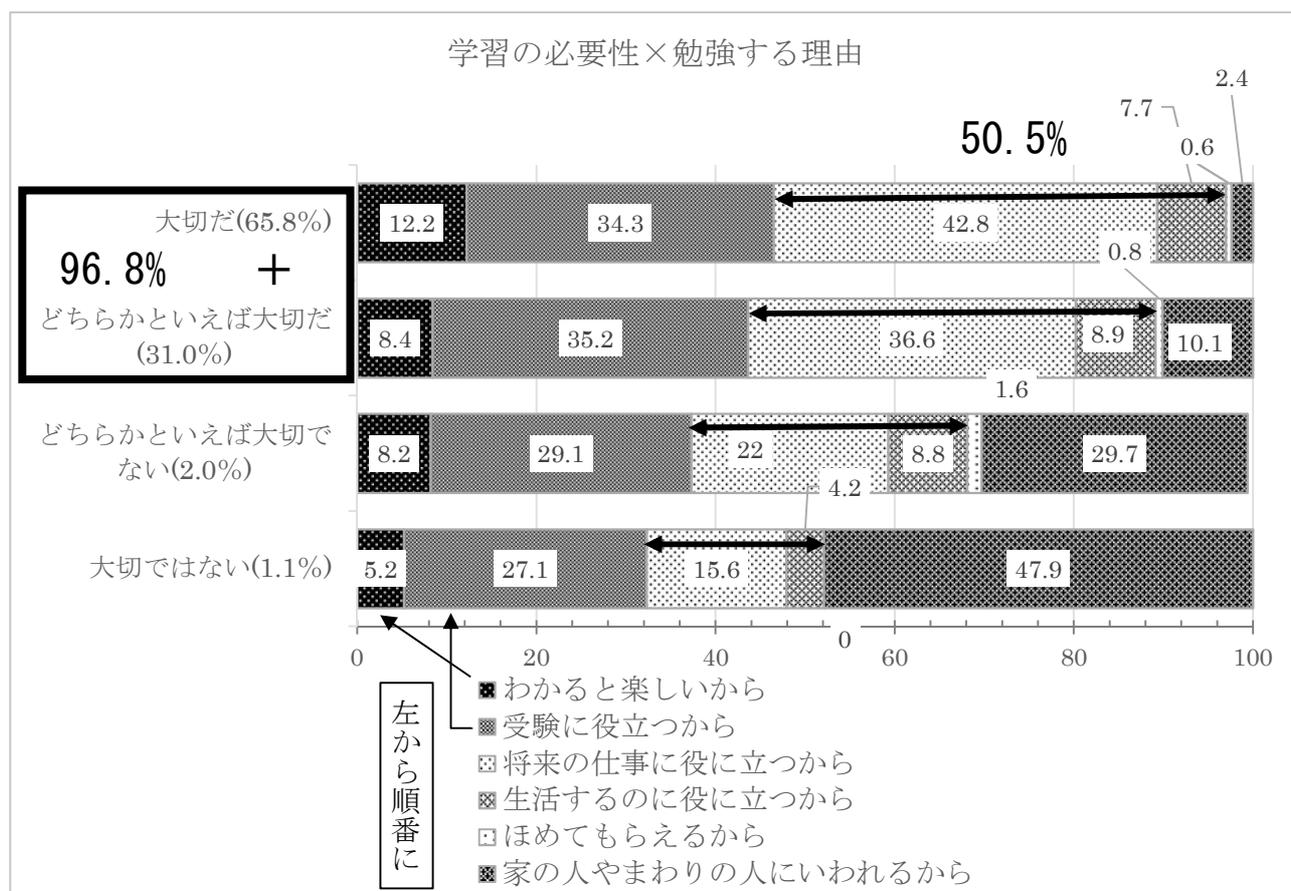


○将来、社会に出た時の有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは「国語」（91.8%）で、以下、「英語」（91.4%）、「数学」（79.5%）、「社会」（68.6%）、「理科」（57.4%）となっている。

○29年度の調査と比較すると、「数学」は1.3ポイント、「理科」は3.8ポイント、「英語」は2.3ポイント増加している。

○(3)有用感(生活)と比較すると、「国語」で7.4ポイント、「社会」で8.2ポイント、「数学」で6.7ポイント、「理科」で2.7ポイント、「英語」で16.6ポイント高くなっている。

(5) 「学習の必要性」 × 「勉強する理由」 クロス集計



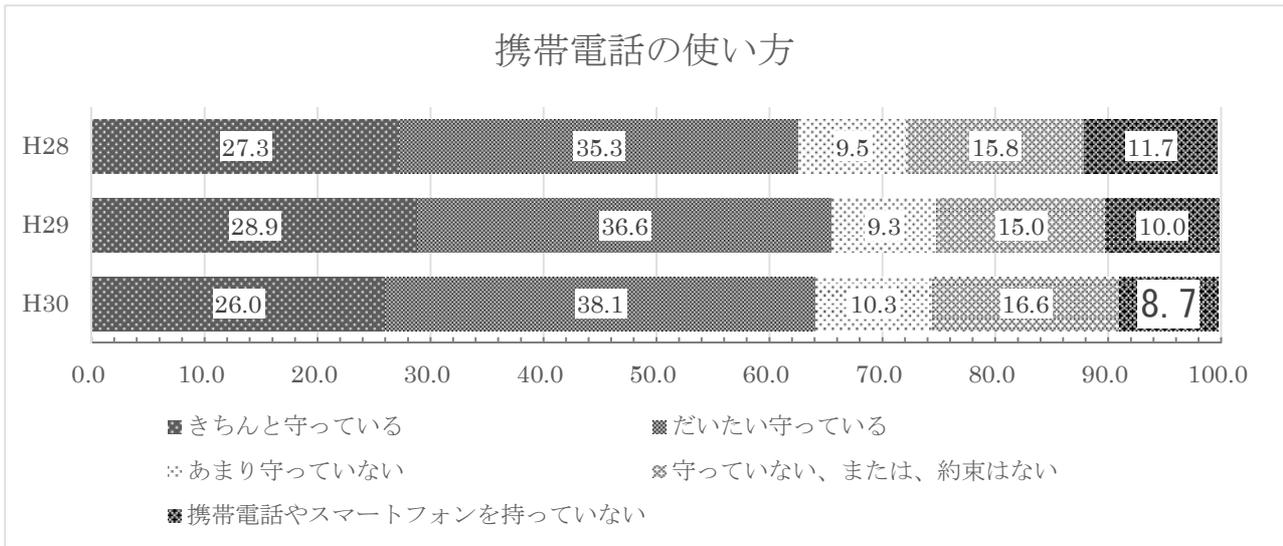
○「大切だ」と回答した生徒のうち「将来の仕事に役に立つから」と「生活するのに役に立つから」と回答した生徒は、50.5%である。

○勉強することは「大切だ」、「どちらかといえば大切だ」と回答した生徒を合わせると96.8%となっている。また、肯定的な回答をしている生徒ほど、将来の仕事や生活するのに役に立つと回答する割合が高くなっていく

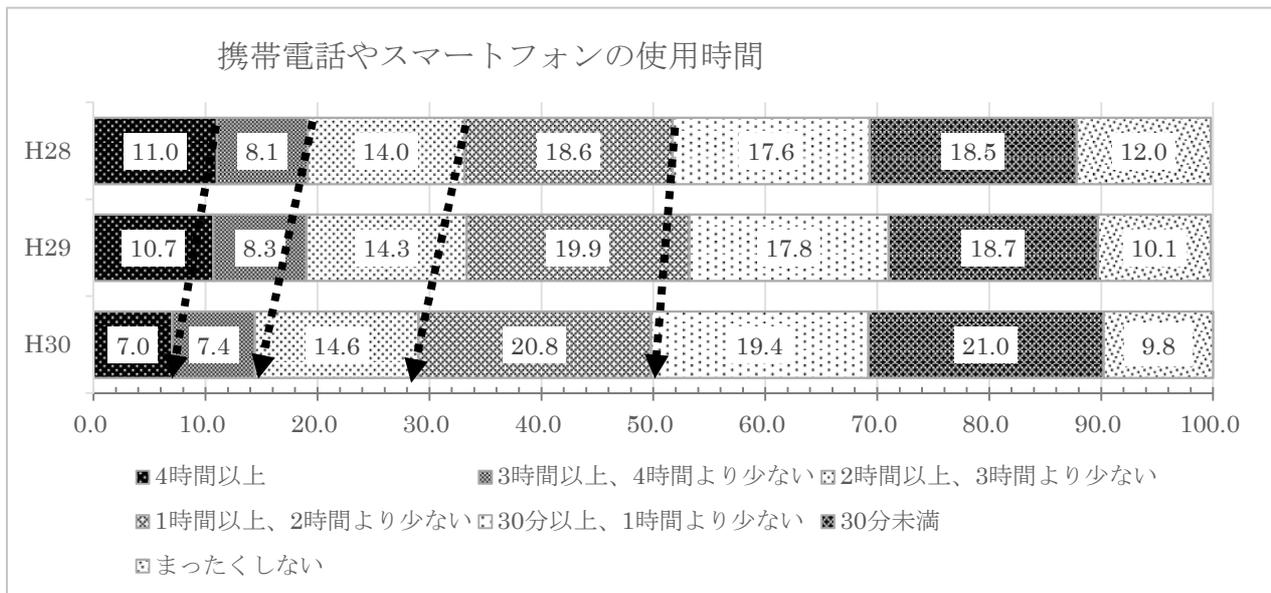
(1) ~ (5) の結果のまとめ

新学習指導要領では育成を目指す資質・能力を明確にし、教科等を「学ぶ意義」を大切にしながら、教科間等の相互の関連を図り、教育課程全体としての教育効果を高めていくことが求められている。今後とも生徒たちの学習に対する興味・関心を高め、すべての生徒が「わかる」ことを目指しながら、その教科等を学ぶ意義を実感させ、学ぶことによって「何ができるようになるか」という見通しをもたせ、主体的に学習に向かわせる指導の工夫が必要である。

2. 家庭生活の実態について



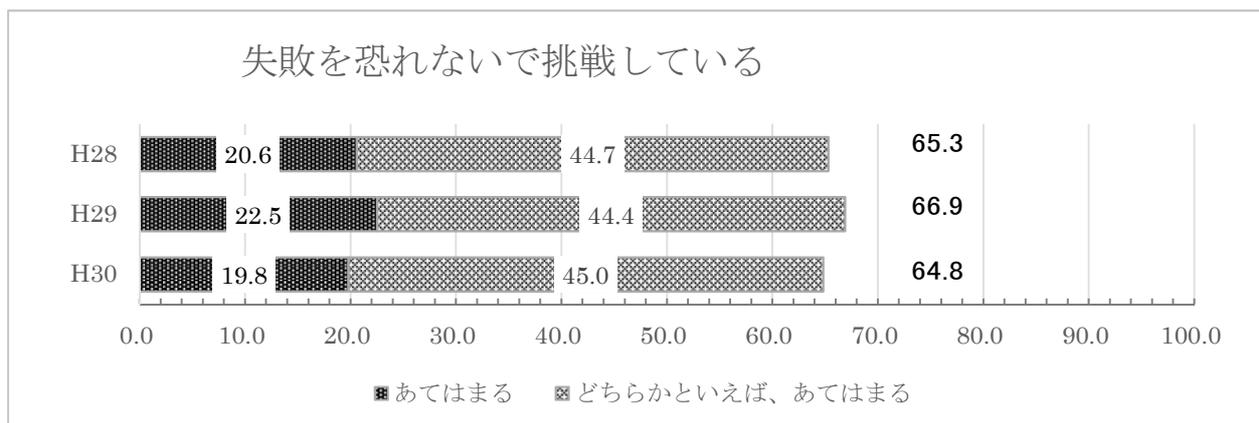
○「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」では、「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した生徒は、64.1%である。また、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した生徒は、8.7%である。



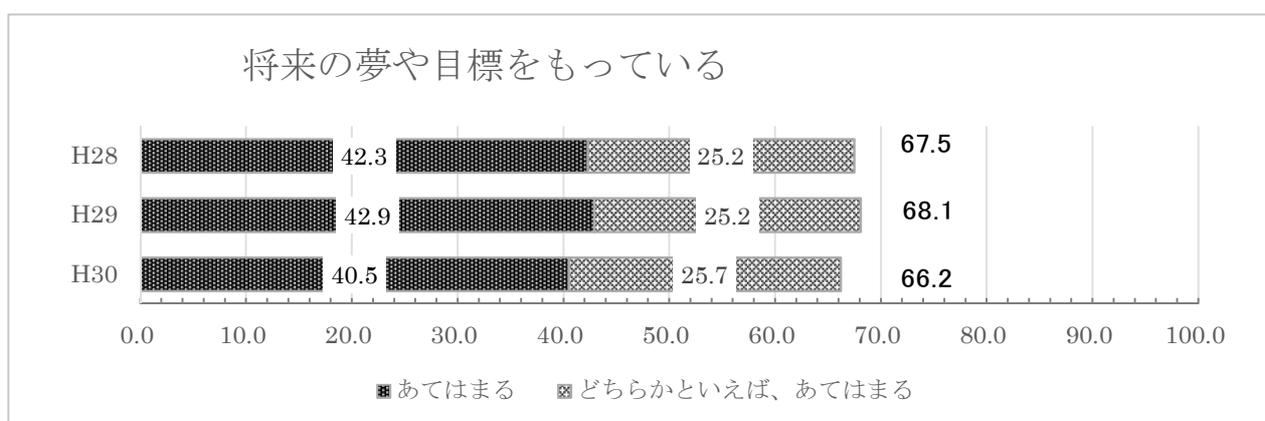
○「学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。」では、「1時間以上」と回答した生徒は49.8%、「3時間以上」14.4%である。

携帯電話等の使い方については、所持率は上がっているものの、全体では長い時間使用している生徒の割合が減少している。今後も、学校と家庭が連携してインターネット情報との向き合い方、情報活用について正しい知識を身に付けさせる必要がある。

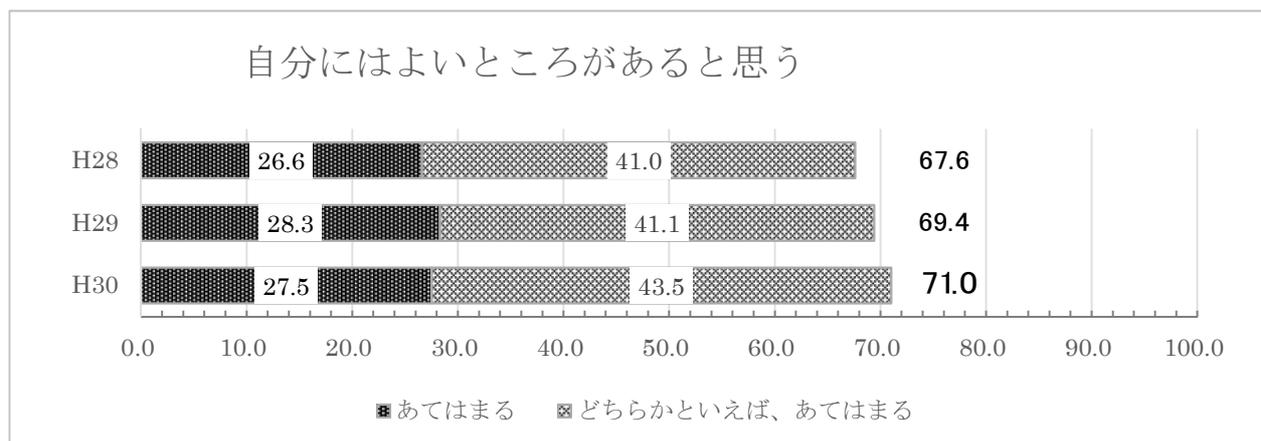
3. 自尊意識・将来に関する意識などについて



○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒は64.8%である。

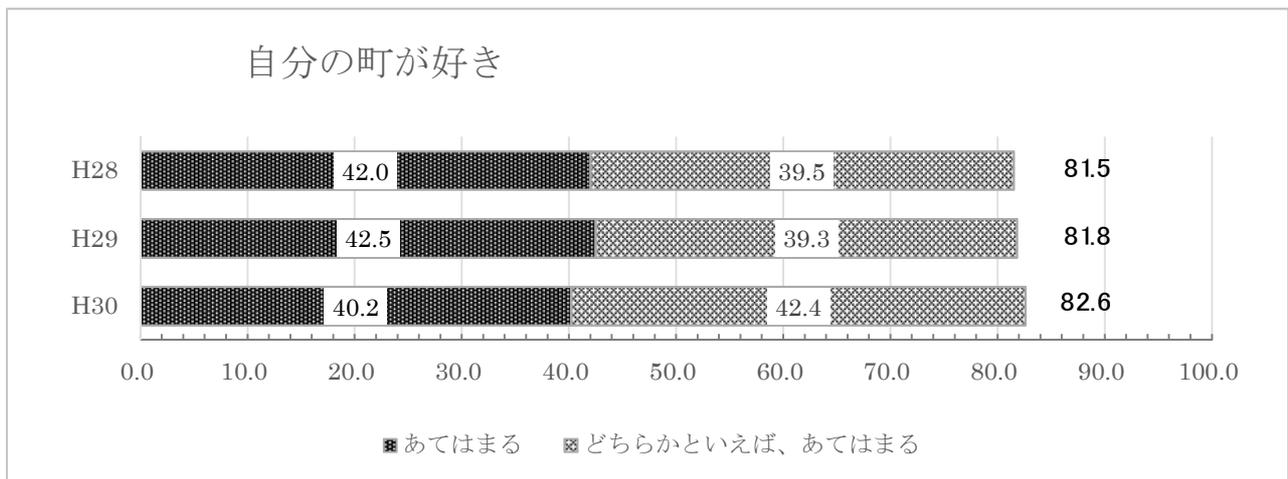


○「将来の夢や目標を持っていますか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒は66.2%である。

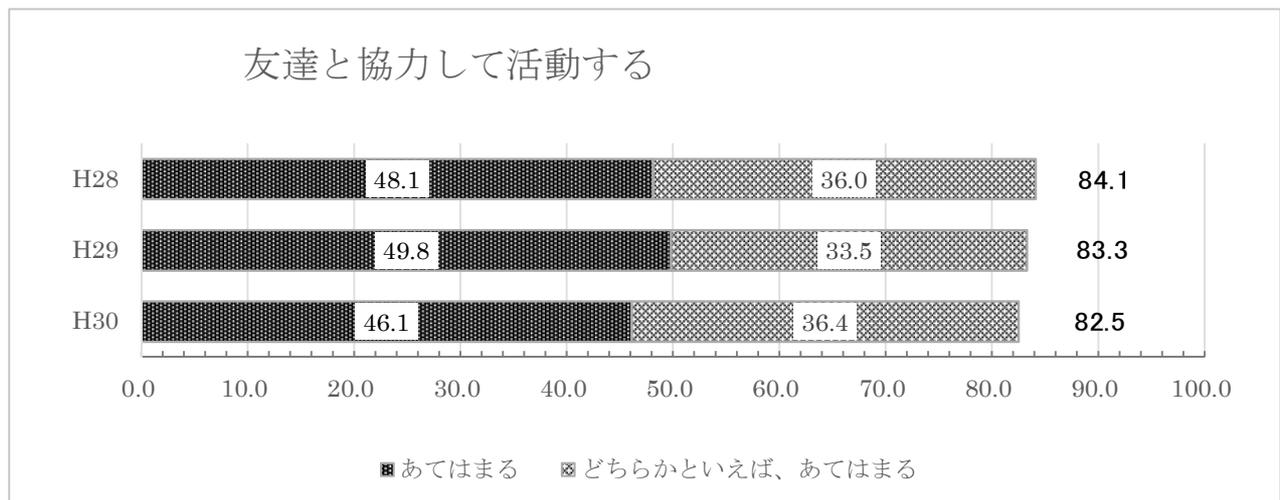


○「自分には、よいところがあると思いますか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒は71.0%である。

各学校において、学校生活の中で子どもたちが自分のよさを知り、希望をもって物事に向き合っていきながら、さらに自分を高めるために挑戦し、成功体験を積み重ねていく。今後もこのような自尊感情等を育む教育活動を進めていくことが大切である。



○「自分の住んでいる町が好きですか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒は82.6%である。



○「友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることは好きですか。」では、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒は82.5%である。

自分の町を愛する気持ちや他者と協力することは、かわさき教育プランにおいても大切にしているところであり、川崎の地域資源を生かした特色のある教育活動を、今後も継続して進めていくことが大切である。

◎ 調査結果の活用

1. 主な誤答と分析

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手立て
1	a	3	47	1	4 2	27 15	密度を求める公式については、約半数が理解している。物体の浮き沈みと密度を結びつけて考える部分については理解が不十分である。氷と水などの身近な事例を取り上げ考える機会を設けるとよいと考えられる。さらに密度を求めるだけにとどまらず、そこから物質の浮き沈みについて考えることや物質の特定を行う実験なども取り入れていく必要がある。
	b	4	52	0	2 1	17 17	
	c	2	59	1	4 1	14 14	
2	a	3	41	1	1 2	42 16	気体の捕集方法については、理解が不十分であると考えられる。気体の性質を説明したうえで、正しい捕集法を選択させる機会が必要であると認められる。気体の発生については、一通りの方法ではなく様々な方法で発生させることも必要である。また気体の性質については、授業の中で実際に実験を行い気体の性質を調べさせていきたい。
	b	4	52	1	1 2	23 14	
	c	1	22	1	2 3	39 21	
	d	1	38	1	2 4	42 12	
3	a	2	58	1	1 4	17 14	質量パーセント濃度や再結晶に関しては半数以上の生徒が理解している。しかし、温度の変化から何gの結晶がでてくるのかをグラフから読み取ることを苦手とする生徒が多いので、授業中での作業を増やしていきたい。
	b	4	41	1	3 1	23 18	
	c	再結晶	55	26	結晶 蒸留	4 2	
4	a	1	43	1	2 4	23 21	エタノールと水の分離実験は、結果からどの液体がエタノールを含むかを考えることができていた。しかし、「蒸留」という言葉の定着に課題がある生徒が多く見受けられた。「蒸留」が日常生活で利用されている例を紹介するなど、身近な事象につなげることで知識の定着を図りたい。
	b	2	53	1	1 3	21 14	
	c	蒸留	33	42	じょうりい 蒸散	4 4	
5	a	3	32	1	4 1	33 31	正しい回路図を選択する問題についてはよくできていた。しかし、電圧計の読み取りができていない生徒が多かった。授業の中で実験を行い、実際に目盛りから読み取る機会を設けるとよいと思われる。グラフの作成も多くの生徒が理解できていたが、打点忘れや値を正確にプロットできていない解答も目立った。実験で求めた値をもとに作図する機会を多く設けていきたい。 オームの法則を利用して抵抗の値を求める設問の正答率は低かった。主な誤答から電流と電圧をどちらを割るのかを間違えた生徒も多かったと考えられる。計算に対する苦手意識をなくしていくためにも授業の中で繰り返し公式を扱ってほしい。
	b	4	86	1	1 2	7 4	
	c		41	10	原点なし 点がずれている 最後まで線が引いていない 点がない	18 10 8 6	
	d	2	64	3	3 1	20 9	
6	a	3	65	1	1 2	20 11	抵抗の大小と電流との関係は多くの生徒が理解しているが、電力と上昇温度の正しいグラフを読み取ることは多くの生徒ができなかった。電圧が電力と電流に比例していることを、実験のグラフから導き出すことが必要だと思われる。
	b	4	21	2	3 1	48 15	
	c	5400 (J)	29	23	180 (J)	8	

各教科では、主任会や教科総会において、調査結果から明らかになった課題や授業改善への手立てを周知するとともに、学習指導要領実践事例集などで具体的な実践例を示している。

各学校では、設問ごとの授業改善への手立てをもとに、子どもたちが「わかる」を実感できる授業づくりに活用している。

